

授業科目：	教養ゼミナール「グローバルな視点で見るジェンダー格差を考えよう」		
科目区分：	全学共通選択科目	受講者数：	2名+1名（聴講生）
担当者：	日高 陵好（保健福祉学部看護学科）		
アクティブ・ラーニングのタイプ：	行動型 ・ 参加型 ・ 複合型 （※行動型・参加型ALを組み合わせる実施）		
キーワード（具体的なAL手法等）：	事前課題，文献調査／発表，討論，ゲスト，フィールドワーク，プレゼンテーション（パワーポイント使用）		

1. 授業の概要と目標

授業の目標

- ・グローバルな視点を取り入れてわが国のジェンダー格差について考察できる
- ・文献資料，討論，フィールドワークを通して批判的に思考し自分の考えを構築できる
- ・フィールドワークから課題を発見し考察した内容を，他者に明確に伝えることができる

授業の概要

ジェンダー格差について，社会の中の男女の位置づけ，役割，法的保護，ワークライフバランス，夫婦やカップル間の役割，男女の働き方，社会への参画といったトピックから考える。文献資料の講読，議論，フィールドワーク，発表を通して理解を深め考察する。

2. アクティブ・ラーニング導入の具体的な流れ

○科目名 教養ゼミナール「グローバルな視点で見るジェンダー格差を考えよう」

本授業は，毎回アクティブ・ラーニング授業（参加型／行動型）となっている。そのため1回の授業についてではなく，15回の授業の全体像を下記に示した。

段階	指導過程・学修活動	指導上の留意点(工夫)	評価方法
前半	事前課題として世界のジェンダー格差に関する英文記事を読んでおいてもらう。それを最初に分担して読み，討論を行った。	英文がすべてわからなくても，記事の内容をどれだけ読めてるかに重点を置き，そこから意見交換して内容理解を深めた。	事前課題の予習度，積極性・参加度
中盤	ジェンダー格差について3つの視点を決め，3人の受講生にそれぞれ文献等から調査してもらい，A4資料により発表した。 海外のゲスト(アメリカ人青年男女2人)を招いて，ジェンダー格差について討論した。海外の状況について，海外の若者の考え方に触れた。	A4資料がわかりやすく作成されているか指導した。 積極的にコミュニケーションをとることを求めた。時折，通訳を行い，ファシリテートを行うようにした。	A4作成資料と発表方法を評価 積極性・参加度
終盤	フィールドワークとして自分の暮らす自治体の「男女共同参画」関係部署を訪問し，インタビューを行った。そこから地域にある課題を発見し，それについてまとめ・考察し，プレゼンを行った。	訪問インタビューをフォローした。また，パワーポイントの内容と発表の仕方については事前に個別指導を行った。	フィールドワークの内容，パワーポイントを含めた発表の仕方，伝え方。課題発見，考察力。

3. 成果・効果

少人数であったためゼミ形式で非常に密な授業になった。受講者はいずれも積極的で，議論が活発化した。聴講生も最後まで受講生と同様に取り組んだ。最後のプレゼンも個別指導内容を参考に各人で修正し練習を積んで行ってもらった。プレゼン内容も発表も質の高いものになったと思う。ジェンダー格差について，世界から始まり，最後に身近な地域での実際を理解，考察することができて有意義であったと思う。また，キャンパス，学年の枠をはずした受講生にとって，とても刺激的であり，別の視点からの意見交換ができたと思う。

4. 課題

- 3～4年生の選択科目であるため、受講者が少ないことが課題である。
- 内容が密な授業であり、個別指導等を鑑み、6人程度のクラスになることが望ましい。

5. 資料

特になし